



第19回全国棚田(千枚田)サミット

人・まち・棚田ともに未来へ
～伝えよう! 持ちこたえよう! 豊かな恵み～

11/8(金) → 9(土)

サミット初日(11月8日)、開会式基調講演の後事例発表を行う予定の『棚田ふぁむ』の活動について紹介します。

この『棚田ふぁむ』は、和歌山大学観光学部の学生が中心となり、平成23年に結成された約30名のボランティア組織です。



活動場所は、棚田サミットの現地視察コースとなっている沼地区。標高200～600mに棚田が広がる集落です。

活動当初は、地区内にある耕作放棄地を借り受け、草刈りやソバの栽培から活動をはじめました。

活動2年目となった昨年は、収穫したソバを使って地域の方々と交流会を開催、その後、行われた地域の秋祭りにも参加し、神社へ餅の奉納を行うなど地域の方々と一体となった活動を展開しています。

そして、活動3年目となった今年は、ソバの栽培に加え、水稻栽培にも挑戦しています。田植え・稲刈りなどの単発的な作業だけでなく、用水管理など日常管理が必要ですが、地域の方々に支援をいただきながら、地域との交流を軸に棚田保全を継続したいと考えています。

又、もう一つの事例発表では、地元、有田中央高校本校生徒「農業クラブ」の活動・清水分校生徒の「あらぎ島」での活動について事例発表を行う予定です。



来月10月半ば地区内の稲刈り作業が一段落するころに『棚田ふぁむ』が作ったソバ刈りが行われます。今年の出来はどうでしょうか。

棚田サミットを契機とした棚田保全の取り組みが、ここ沼地区でもはじめられています。

サミット通信【Vol.8】